

2025年6月6日（金）

老球の細道 871号

自分達に力がないということを恥じよう

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

県高校体育大会（県インターハイ）は、男子は福島商業、女子は光南高校が新人大会男女優勝の福島東陵高校を見事なアップセットで破り優勝した。全国的に留学生を擁するチームが勝ち上がる傾向の中で、それを覆した結果はすばらしい。さすがに名将水野（福商）、松本（光南）両先生である。

会津地区は今回2日目に残ったチームは皆無であったが、決して力がないわけではない。今大会の結果を鑑みて、昔、喜多方女子高校時代に生徒からいただいた作家・武者小路実篤の『人生論』にある詩の一文を思い出した。奮起の材料になれば幸いである。

【自分たちに力がないということを恥じよう。

そんな言い訳をすることを恥じよう。

そんな言い訳をするのは臆病ものだ。

自分たちには力はあるのだ。ただ出さないのだ。出すのが怖いのだ。出してもみないのだ。

よし自分達の力が弱かったにしろ、真心の力は弱くないはずだ。

弱いというのは精神が足りないからだ。

力はあるのだ。ただ出さないのだ。臆病で出さないのだ。本当に出せば力があるのだ。

ありながら出さないでいて、力がないというのは恥じようじゃないか。

自分達はもっと、もっと力があるのだ。ただ出さないのだ。十分には出してみないのだ。

死ぬ覚悟が出来ていないのだ。生きる覚悟も出来ていないのだ。まだ本当に目が覚めていないのだ。

力があるのだが、まだ出し切らないのだ。

臆病から。そしてつまらぬ遠慮から、そして何よりも怠惰で、事なかれ主義がいけないのだ。

本気になれば、力が出るのだ。恐ろしい力も出るのだ。世界も動くのだ。皆が一致するのだ。そして力が燃え上がるのだ。

少なくともそれだけの力が真心にあることを信じよう。本気さが足りないくせに力がないのだということを恥じよう。

力はあるのだ。自分達には力はあるのだ。

全国にわたる友達にも力があるのだ。ありすぎるのだ。ただそれが一緒に燃え上がるには自分の誠意や、本気や、勇気や、精進が足りないのだ。

力はあるのだ。力はあるのだ。それが一緒に燃え上がれば人類も動かせるのだ。その力はあるのだ。埋もれてはいるが、力はあるのだ。

その埋もれている力を、信用しようではないか。そして一步一步自分で進んでいこうではないか。〈後略〉】もう一息、もう一息、だめだ、だがもう一息、勝利は大変だ。